Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-06-01

ドイツ語オンライン授業の一考察 : Jamboardを使用した外国語学習活動

芹澤, 円

(Citation)
神戸大学国際コミュニケーションセンター論集,18:101-112

(Issue Date)
2022-03-31

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81013099

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013099

『神戸大学大学教育推進機構国際コミュニケーションセンター論集』18 号（2022 年 3 月）
Journal of the School of Languages and Communication, Kobe University, Vol. 18 (March, 2022)
NCID=AA12182319

ドイツ語オンライン授業の一考察

―Jamboard を使用した外国語学習活動―

芹澤　円
神戸大学 大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター

概要

本稿は Zoom を使用した同時双方向型のドイツ語初修者向けのオンライン授業に焦点を当て，Google Jamboard を利用したペア･グループワークの活動を報告および考察するものである。その際には Jamboard の使用法および，学生による Jamboard を使用した実際の活動成果物を示しながら，学生がどのように Jamboard を使用して活動を行ったのかを考察した。また，今回紹介する学習活動がどのような点でタスク活動と異なるのかについても言及を行うとともに Jamboard の外国語教育における使用の利点についても示唆を行った。

キーワード

外国語教育，ドイツ語教育，Google Jamboard

1. はじめに

コロナウイルスの広がりが続く中で，大学における教育のシステムも大きな影響を受けたことは自明のことである。多くの大学がオンライン授業やオンデマンド授業を採用し，各教員が新しい手法で授業を確立していった時期でもあると言えるだろう。そこで本稿では実際に筆者が行った Zoom を使用した同時双方向型のドイツ語授業における Google Jamboard を使用したペア・グループワークでの活動についての実践内容を報告し，考察を行う。

2. 授業の概要

本稿で取り上げる授業は，ドイツ語を初修とする学生を対象とし，ドイツ語のコミュニケーションを中心としたクラスである。授業で指定する教科書は会話，文法，練習問題，ランデスクンデにそれぞれ 1 ページずつが配分され，全 4 ページで 1 課が構成されている。コミュニケーションを中心とした授業という設定ではあるものの，文法の解説も並行して行う授業の形をとった。履修者の多くが第 1 から第 4 クオーターまでを受講する。

本稿で対象とするのは 2021 年度第 4 クオーターの授業である。当該授業では 1 年間 Zoom を使用した同時双方向型のオンライン授業を行ってきた。とりわけ第 4 クオーターに入っ

てからは，Google Jamboard（以下，Jamboard とする）を使用し，ペア・グループワークでの課題取り組みの際は学生に Jamboard を活用してもらった。今回対象としたクラスは 2 クラスあり，どちらも 1 クラス 35 名前後の履修者で構成されている。

3. Jamboard と活動内容の概観

この章では Jamboard の詳細および，Jamboard を使用した活動の概観を示す。

3.1 Jamboard について

Jamboard は Google が提供するシステムの 1 つである。教員が Google アカウントを利用して新しい Jamboard を追加し，学生には Jamboard の URL を送る。学生が指定の URL にアクセスすると，アクセスした全員が同じ Jamboard 上で作業をすることが可能となる。筆者の場合は 1 つの Jamboard に最大 20 枚のスライドを設置することができた。教員を含め学生全員すなわち URL のリンクを知っている者全員がどのスライドも操作することが可能である。Jamboard のさらなる詳細な使用方法については Draucker（2021）に記されている。

3.2 Jamboard の操作

すでに述べたように第 4 クオーターより，授業内で適宜 Jamboard の利用を取り入れることを試みたが，授業内で学生に Jamboard の事前使用の有無について確認したところ，ほぼ全員の学生が当該授業以前にその他の授業において Jamboard を使用した経験が無いことが明らかになった。そこで，Jamboard を初めて使用する授業回では，Zoom の画面共有機能を利用し，Jamboard の画面を共有しながら事前の使用説明を行った。

また，Jamboard を利用する際には，Google アカウントを持っていることが前提になること，そして学生のプライバシー保護も視野に入れる必要があった。そのため，Jamboard を使用する際には学生に事前に，神戸大学が契約している G Suite のアカウントに各自ログインをしてもらい，そのうえで Jamboard の URL にアクセスするようアナウンスを行った。

3.3 Jamboard を使用した活動目的

コロナウイルスの蔓延により，オンライン授業やオンデマンド授業が主となっている大学も多く，筆者が担当した外国語科目も例外ではなかった。筆者は第 1 クオーターから Zoom を活用しながら同時双方向型の授業を展開してきた。授業内でのペア・グループワークに際しては，Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用し，活動を行った。

Zoom にはホワイトボードの機能もあり，Zoom の参加者全員が同じ一枚のスライドにテキストを挿入したり，線を描いたりすることができる。しかし，常に作業中の 1 枚のスライドしか共有として表示することができず，グループ作業をするにはやや使用しづらい側面

があった。

一方 Jamboard は，URL にアクセスした学生全員が同時に何枚ものスライドで作業を行うことが可能である。また，学生同士で Zoom の画面共有機能を使用して作業中の画面の共有を行う必要がない。Google スライドも Jamboard とほぼ同様の機能を備えているが，Google スライドは Microsoft の Power Point のような機能を多く持つのに対し，Jamboard は，テキスト，線，写真，図形などを挿入できるのはもちろん，ポストイットの機能が備わっている。利用者はポストイットの色分けも簡単に行うことができるため，ブレインストーミングの際には有用だと考えられる。また，Google ドキュメントも Microsoft の Word と同様の機能を果たすが，やはりブレインストーミングのような作業をする際には Jamboard の方が適していると考えられる（Draucker 2021: 2 を参照）。

Jamboard を授業内での活動に取り入れることで学生同士が同じスライド上で作業をすることができる。同時に教員側は作業中の全スライドを確認しながら適宜ブレイクアウトルームに参加し，学生との意思疎通を図ることが可能となる。上記の理由から授業内での Jamboard の利用を決定した。

3.4 Jamboard を活用した活動内容の概要

第 4 クオーターでは教科書の内容に加え，授業時間を考慮に入れながら Jamboard を使用した活動も組み入れた。以下，Jamboard を使用した活動を簡単に示す。

表 1　ドイツ語初修授業における Jamboard を使用した活動

活動形態	文法項目	活動内容
ペアワーク（2 人が基本，場合により 3 人）	比較級・最上級形容詞の格変化	・手持ちの文房具を付加語的形容詞，比較級・最上級を使用しながらパートナーに紹介する
グループワーク（3-4 名）	比較級・最上級形容詞の格変化	・教科書に掲載されている会話文を確認したうえで考えられうる会話の続きをドイツ語で表現する ・会話の場面：洋服屋での買い物
グループワーク（3-4 名）	定関係代名詞	・Jamboard 上に準備されたドイツ語圏出身の人物の写真に対して定関係代名詞を使用しながら人物を説明，描写，紹介する文を作る
ペアワーク（2 人が基本，場合により 3 人）	接続法第 2 式	・SDGs の 17 のテーマから 1 つを選択し，現在の日本や世界の状況を踏まえ「～ならば，～なのに」という接続法第 2 式を使用したキーセンテンスを作成する ・なぜそのキーセンテンスにしたのかを説明する

当該授業では，教科書の会話部分の意味確認及び読み合わせによる発音確認，文法項目の説明，そして練習問題（穴埋め問題・書き換え問題・聞き取り問題等）をいくつか行ったうえで，Jamboard の活動を行った。教科書のランデスクンデのページは授業時間の配分によっては省略することもあった。

4. 接続法第 2 式に関する Jamboard を利用した活動

3 章において Jamboard を使用した授業内の活動について概観を示した。そこでここからは活動の１つである接続法第２式をテーマとしてJamboardを使用した活動を報告する。ドイツ語の接続法第 2 式は，英語の仮定法と同様に「もし～ならば。。。」を表現する文法項目である。

便宜上，対象とした 2 クラスをそれぞれクラス A，クラス B とする。接続法第 2 式の項目において Jamboard の活動に参加したのは，クラス A では 32 名，クラス B では 37 名であった。接続法第 2 式の Jamboard を使用したペアワーク活動に関して学生への指示内容を以下に示す。

接続法第 2 式の Jambord 活動＜SDGs について考えてみよう＞

1）グループ内で，SDGs のどのテーマに興味があるかを話し合おう

2）グループ内で１つのテーマを決定

3）テーマに関して接続法第 2 式を使用した「もし～なら，～なのに」というキーセンテンスを考えよう（現実を鑑み具体的にどうすれば・どうなればよりよい状況になるかを考える）

4）テーマに対して，なぜそのキーセンテンスを選んだのか日本語で説明を作成しよう

→その際には日本語の単語に対してできるだけドイツ語も付けよう

→部分的にでもドイツ語の文章を作成できればなおよい

（3 と 4 は順番が逆でも可）

作業方法

・Jamboard を使用

・１つのグループあたり 3 枚のスライドを使用

・１枚目は作業用，2 枚目と 3 枚目にまとめる

・写真を挿入するなど，自由に使用可（ポスターのように作成しても面白い）

・スライドには作業者の名前を記入すること

活動内容の説明は，共有画面にて外務省が作成した SDGs に関するサイトを表示しながら行った（https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf）。活動内

容の説明終了後 3 分程度時間を取り，各自が SDGs の 17 あるテーマのうち，どのテーマに興味があるのかを考える時間を設けた。また，ペアの作成に当たっては，Zoom によるブレイクアウトルームの自動作成を用い，ランダムにペアが決定された。活動の作業時間は活動の初回授業にておよそ 20 分程度，1 週間後の授業においておよそ 40 分程度，全体で 60 分程度を確保した。学生が活動を行っている間，教員はそれぞれのブレイクアウトルームを回り，ルームごとの Jamboard も併せて確認しつつ，活動の進捗具合を確認した。

次からは，学生による活動の成果物として，Jamboard のスライドをいくつか紹介していく。まずはクラス A から選出した 1 つのペアグループの Jamboard 活動を示す。なお，図のタイトルにはクラス，本稿におけるグループ番号，スライド番号を示しておく。すなわち，A-1-1 であればクラス A，グループ番号 1，スライド番号 1 を意味する。

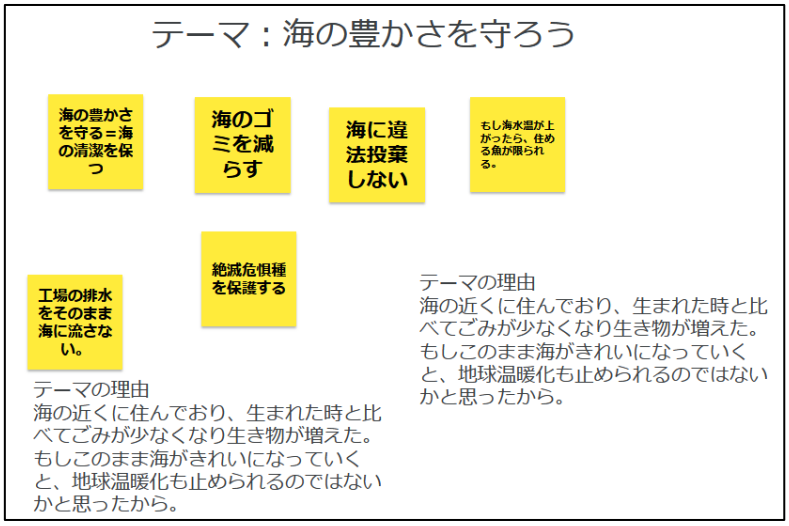

図 1 クラス A-1-1

図 2 クラス A-1-2

図 3 クラス A-1-3

図 1 はクラス A より選出したグループの Jamboard スライドの 1 枚目，図 2 は 2 枚目，そして図 3 は 3 枚目を示している。スライド 1 枚目は作業用として使用するよう学生に指示を与え，グループ内でのブレインストーミング用のスライドとした。A-1 のグループでは図 1 においてテーマの設定，テーマ設定理由そしてキーワード等をポストイット機能やテキスト挿入機能を使用しながら記したことがわかる。図 2 では上部中央においてドイツ語文を四角く囲い，接続法第 2 式を使用したキーセンテンスを目立たせている。また写真を添付し，写真へのやじるしの書き込みを行ったり，テーマ設定の理由を示している。テーマ選択の理由は学生自身の経験に基づいていることがスライドから理解でき，日本語およびドイツ語文において説明が行われている。さらに図 3 ではドイツ語だけで作成した文，そして日本語とドイツ語を一つの文に織り交ぜた文が記載されている。また，汚れた砂浜の写真を掲載し，やじるしを書き込みながら注意喚起の文を付随させている。

次に，クラス B から選出した Jamboard の活動の 1 例を示す。

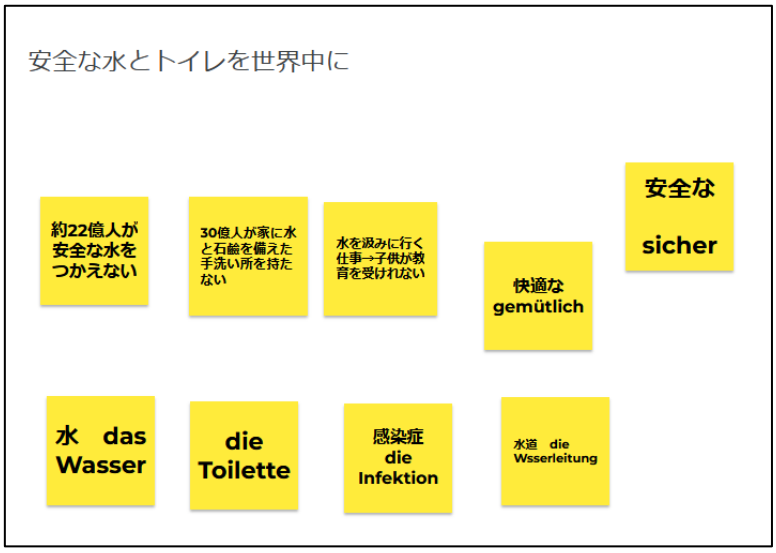

図 4 クラス B-1-1

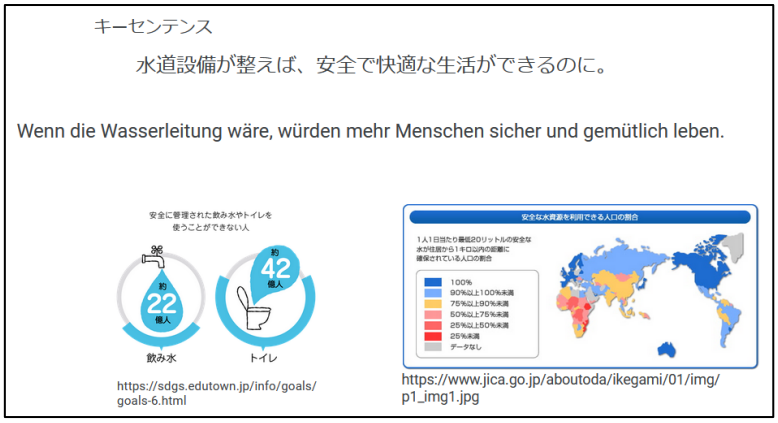

図 5 クラス B-1-2

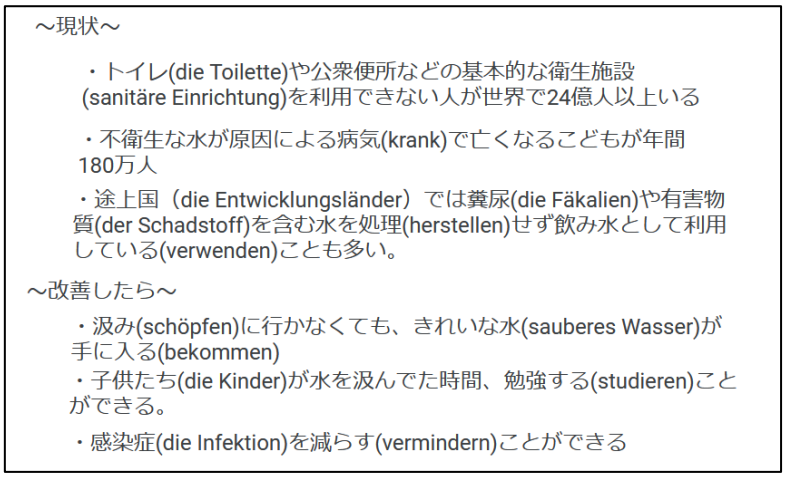

図 6 クラス B-1-3

クラス B から選出した 1 つのグループの活動の成果を観察すると，作業用として設定しているスライドの 1 枚目，すなわち図 4 ではポストイット機能のみを使用しながらテーマ設定に関して調べた内容及び，情報に基づきながら現在の世界の現状や関連するキーワードなどを並べていることがわかる。図 5 では接続法第 2 式を使用したドイツ語の文とその日本語文を掲載している。また，テーマやキーセンテンスを設定した理由の裏付けとしてインターネットで収集したグラフを情報として載せている。スライドの 3 枚目となる図 6 ではテーマに関する世界の状況と，テーマの問題が解決した後に可能となりえる項目を掲げている。その際には，日本語文においてキーワードと考えられる単語にドイツ語を付随させている。

上記 2 つのグループを例として Jamboard を使用した活動への取り組みを観察すると，それぞれのグループがどのような機能を使用してどのようなレイアウトで 3 枚のスライドを使用しているのかを詳しく見ることができる。

また，上記の他にも例えば次のようなスライドも例として示すことができる。

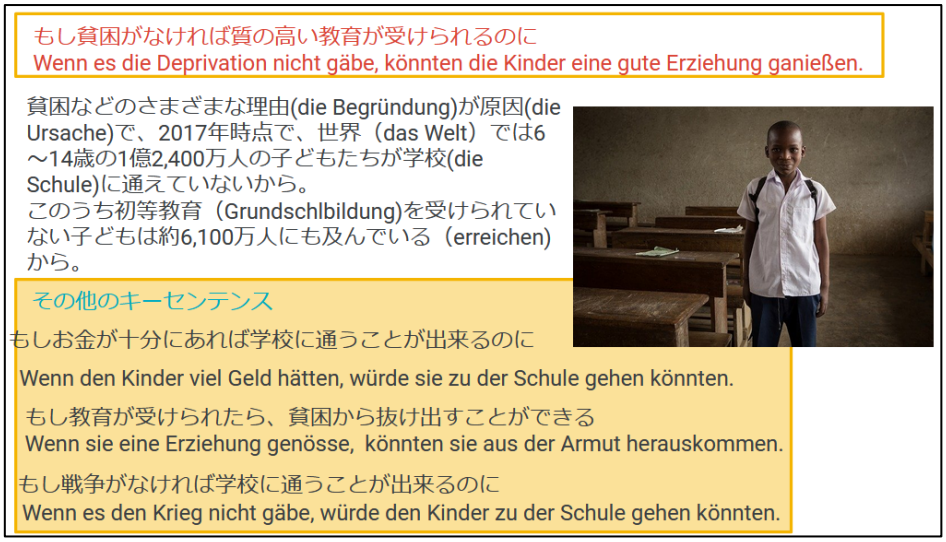

図 7 クラス A-2-3

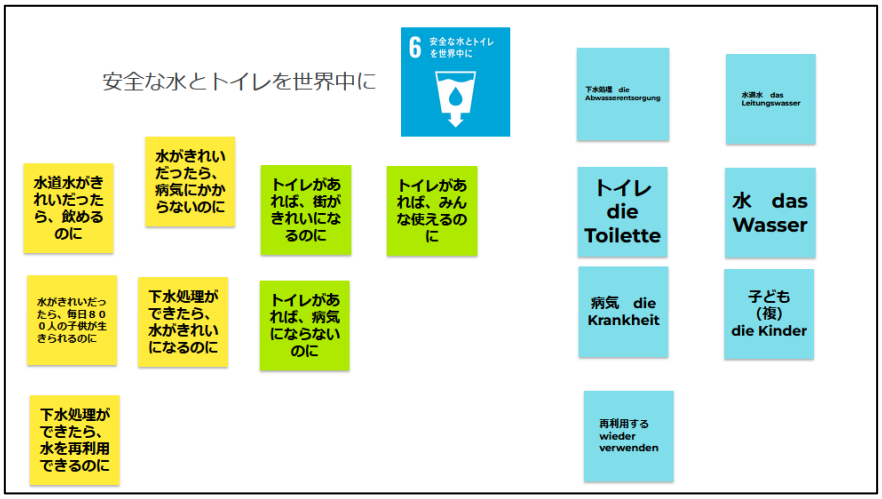

図 8 クラス B-2-1

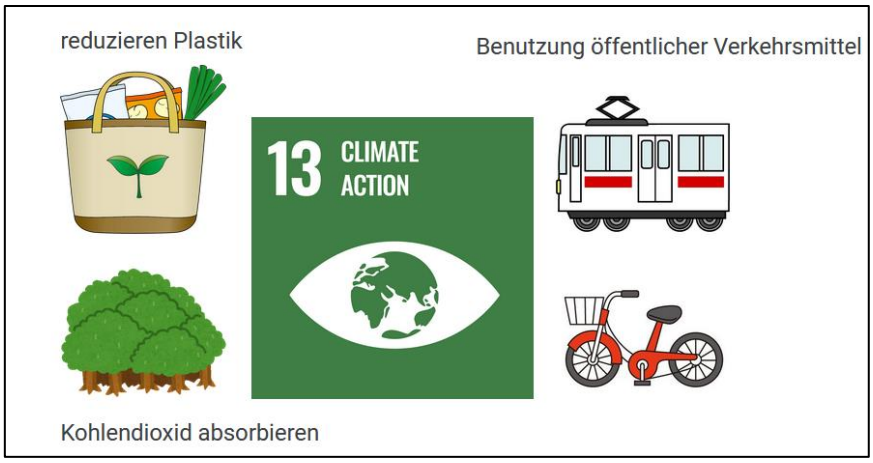

図 9 クラス B-3-3

図 7 はクラス A のグループから選出した Jamboard の 3 枚目のスライドである。このグループは 3 枚目のスライドにおいて，グループで話し合って決定されたキーセンテンスの他にも，話し合いで出てきたと考えられるキーセンテンスの候補をスライド下部に盛り込んでいることがわかる。候補となっていたいくつかのキーセンテンスもスライド内に示すことで，他のグループよりもより多く，学習目標の文法事項を含んだ文を作成する機会を得たと言えるだろう。図 8 はクラス B のあるグループの 1 枚目のスライドを示している。このグループはポストイットを色別で使用することで，ブレインストーミングにおけるお互いのコミュニケーションをより明確なものにしていると考えられる。また図 9 はクラス B から選出したグループの 3 枚目のスライドを示している。このグループは「気候変動に具体的な対策を」をテーマとし，スライド 2 枚目においてキーセンテンスやその理由を記載した上で，3 枚目のスライドすなわち図 9 においてテーマに対する対策を様々な絵と端的な

ドイツ語を組み合わせることで対策法をわかりやすく表示している。

本稿において示した活動の成果は，ほんの一部であるが，それぞれのグループがテーマ決定を行い，接続法第 2 式を使用したキーセンテンスを作り上げていた。それぞれのグループの活動の取り組み方は様々であり，テキスト挿入機能のみを使用し全 3 枚のスライドを作成したグループや，また，筆者からの活動内容の説明が不十分だったために，キーセンテンスをいくつも考え出したグループもあった。

5. まとめと課題

本稿において Jamboard を使用した具体的な学習活動として，接続法第 2 式の文法事項を扱った例を取り上げた。その活動の目的は，ドイツ語の接続法第 2 式を使用してドイツ語で表現をする練習を行うことである。テーマに沿ったキーセンテンスを接続法第 2 式を使用して学生に決定させることで，学生は目標の文法事項の使用について考え，実際にアウトプットするという活動を行うことができた。また，アウトプットに際しては，Jamboard を使用することで，学生同士及び，学生と教員間での活動画面の共有が容易になった。また，学生同士が同時に同じスライドに書き込めることから，オンライン授業でありながらさながら対面で活動を行っている状態とあまり相違ない活動が提供されたと考えられる。学生同士が同時にスライド上で共同作業ができることや，スライド上である程度自由にレイアウトができること，全グループ作業の様子を教員側が網羅的に確認できるといった利点もあることを踏まえると，その利便性から Jamboard はオンライン授業だけではなく，対面の授業においても有効的な活用が見込まれるだろう。

また，最後に今回紹介した活動をタスクという観点から考察を行いたい。

近年，外国語教授法においてはタスクを使用した外国語教育が注目を集めている（和泉 2015: 89 を参照）。タスクを使用すると，「学習者は一方的なインプットの受け手ではなく，タスクの遂行者として他の学習者もしくは教師と相互交流する中で，言語を習得していく」（和泉 2015: 89）ことができるとされている。また鈴木（編）（2017）ではタスク導入に関するこれまでの研究がまとめられている（鈴木編 2017: 77-78）。

今回の授業での活動をタスクという観点から考えてみると，タスクの領域までは達していなかったように思われる。もちろんタスクは様々に定義されていることもあり，場合によっては明確に何がタスクとなるかは断言することが難しい場合もある。しかしながら例えば和泉（2015）では Skehan（1998）を引用しながら以下の要件がある活動をタスクとしている。すなわち，

・意味の伝達が中心となる。
・何らかの解決すべきコミュニケーションの問題が存在する。
・目的課題があり，その課題を達成することが必要とされる。
・教室外の世界と何らかの関係がある。

・評価は，タスクの達成の成果を思って行われる。

（和泉 2015: 91）

また，松村（2012）では以下の項目をタスクと見なすための条件としている。

・活動成果の重視

問題の解決や合意の結論，完成された絵など，活動にその「成果」としてのゴールが設定されており，学習者の評価も（使うことのできた言語形式やその正確さではなく）それらの成果そのものによってなされること

・意味へのフォーカス

学習者が持つ情報や意見が異なっていたり，状況に解決すべきジレンマが含まれていたりと，その場に何らかの不一致や不整合，ある種の溝（ギャップ）が存在しており，それが（形式ではなく）意味内容に焦点を当てた理解や表出を生み出していること

・自然な認知プロセス

比較や描写，選択，整序，意思決定など，実生活での言語使用におけるのと変わらない認知作業が学習者に要求されていること

・学習者の主体的関与

学習者自身にとっての意味やリアリティーを持ち，その主体的な関与と判断によって達成される課題であること

（松村 2012: 8-9）

和泉や松村のタスク定義を考慮すると，今回筆者が行った活動には達成されるべき課題は存在していた。また，大きなテーマとしての SDGs を掲げたのは教員側ではあるものの，それぞれのグループ作業におけるテーマの決定は学生が主体となって行った。しかしながら Jamboard を使用した活動の前に，活動において使用を前提とする文法事項を学習させたこと，また，意味の伝達を重視するのではなく，すでに指定された文法事項の使用を課題として提示したため形式重視の活動となってしまっていたこと，学習者にとって実際の生活との関連性が多少低いテーマを伴う活動だったという点において，今回の活動はやはりタスクとして機能を果たしていないこととなる。すなわち今回の活動はエクササイズにとどまったものであった（和泉 2015: 91 を参照）。もちろん，タスク以外の活動すべてを外国語教育から排除する必要はないと考えるが，タスクを使用した活動を増やすことでコミュニケーションを通した外国語学習を達成することがより容易になると考えられる。

さらに，今回紹介した活動では，授業時間の配分から各学生にアンケートを取ることや，実際に活動としてまとめられた Jamboard を提示しながら内容を発表させるといった活動までには至ることができなかった。今後タスクとして同様の活動をさらに発展させたものとし，授業内で活用する際には，学生同士のフィードバックやコメントといった活動も視野

に入れて取り組んでいきたい。

引用文献

Draucker, Shannon (2021). Google jamboard and playful pedagogy in the emergency remote classroom. *Nineteenth Century Gender Studies, 17.1.* (http://ncgsjournal.com/issue171/draucker.html)

松村昌紀 (2012).『タスクを活用した英語授業のデザイン』東京：大修館書店.

鈴木渉 (編) (2017).『実践で学ぶ　第二言語習得研究に基づく英語指導』東京：大修館書店.

和泉伸一 (2015).『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』東京：大修館書店.